

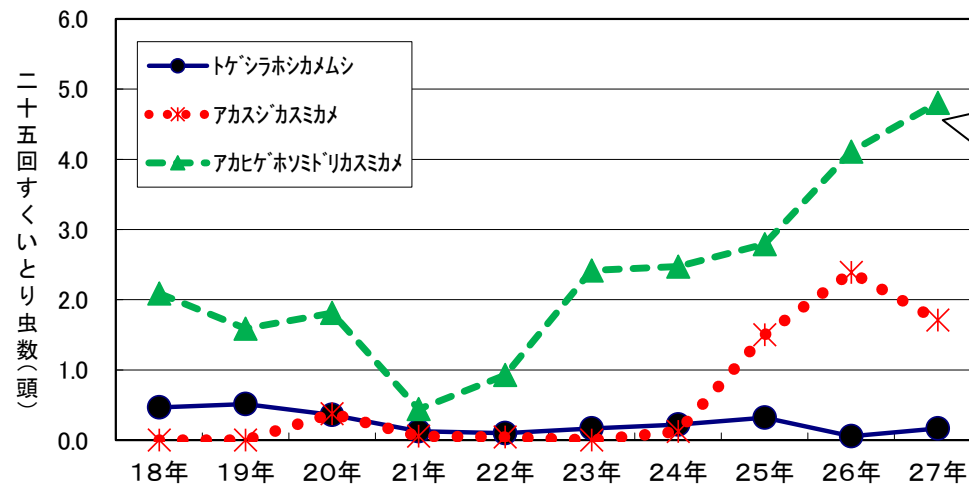
H27農事メモ(第5号)

平成27年7月3日
 白山石川営農推進協議会
 石川県農業共済組合
 松任市農業協同組合

当面の栽培管理

○カメムシに吸汁された籾は斑点米になります。
 斑点米の混入は、等級落ちになるため必ず薬剤による防除を行いましょう。

今年は昨年以上にカメムシは多い！斑点米に注意！！



飛翔性のアカヒゲホソミドリカスミカメが年々増加傾向にある。

○出穂期以降の薬剤防除により、水田内のカメムシ駆除を徹底しましょう。

○他の病害虫についても効果の高い共同防除・一斉防除の実施により、被害を未然に防止しましょう。

水稻の生育状況

連休までに田植えされた圃場では、ほ場間差はあるがコシヒカリ・ゆめみづほとも草丈や茎数は平年並となっています。

出穂はゆめみづほで平年よりも2日早い7月18日頃、コシヒカリで平年並みの8月2日頃の見込です。

【出穂期の見込み(5月連休までの田植え、6月29日調査)】

| 品 種 名 | 出 穂 期 | 減数分裂期 (出穂15~5日前) | 主稈幼穂形成期 (出穂25日前) |
|-------|-------|---------------------|---------------------|
| コシヒカリ | 8月2日頃 | 7月18~28日頃 | 7月8日頃 |

《生育に応じた今後の対応方針》

| | 生育が早い、旺盛な場合 | 生育が遅い、虚弱な場合 |
|-------|--|---|
| 幼穂形成期 | 穂肥施用等の出穂期を目安にする 草丈が長く葉色濃い場合は、穂肥を遅らせ減肥する。追加穂肥は施用しない。 | 穂肥施用等の出穂期を目安にする作業が早めとならないようにする。 追加穂肥を実施する。 |
| 登熟期 | 刈り遅れないようにする。 | 早刈りにならないようにする。 |

1 病虫害防除

(1) 基幹防除

①微粒剤防除体系 ※散布には、専用のホースが必要です。田面に水を張る必要はありません。

【1回目：走り穂期】

| 対象病虫害 | 薬 剤 名 | 使用量 10a 当たり | 散布時期の目安 | 本剤の 使用回数 | 注 意 事 項 |
|-------------------|----------|----------------|-----------------------------------|-------------|-------------------|
| いもち病、カメムシ類 紋枯病 | ザエスト微粒剤F | 3 kg | ゆめみづほ 7月16~19日 コシヒカリ 7月31~8月3日 | 3回以内 | 使用時期： 収穫21日前まで |

【2回目：穂揃い期】

| 対象病虫害 | 薬 剤 名 | 使用量 10a 当たり | 散布時期の目安 | 本剤の 使用回数 | 注 意 事 項 |
|--------------------|------------|----------------|---------------------------------|-------------|------------------|
| いもち病、ウンカ類 カメムシ類 | ピームカール微粒剤F | 3 kg | ゆめみづほ 7月25~28日 コシヒカリ 8月9~12日 | 3回以内 | 使用時期： 収穫7日前まで |

②粉剤防除体系

【1回目：走り穂期】

| 対象病虫害 | 薬 剤 名 | 使用量 10a 当たり | 散布時期の目安 | 本剤の 使用回数 | 注 意 事 項 |
|-------------------|------------------|----------------|-----------------------------------|-------------|-------------------|
| いもち病、カメムシ類 紋枯病 | ピーモンセレンスタークル粉剤DL | 4 kg | ゆめみづほ 7月16~19日 コシヒカリ 7月31~8月3日 | 3回以内 | 使用時期： 収穫21日前まで |

【2回目：穂揃い期】

| 対象病虫害 | 薬 剤 名 | 使用量 10a 当たり | 散布時期の目安 | 本剤の 使用回数 | 注 意 事 項 |
|--------------------|----------------------|----------------|---------------------------------|-------------|-------------------|
| いもち病、ウンカ類 カメムシ類 | ピームキクラブ ジョーカー粉剤DL | 4 kg | ゆめみづほ 7月25~28日 コシヒカリ 8月9~12日 | 2回以内 | 使用時期： 収穫14日前まで |

③粒剤防除体系

【1回目：出穂前】

| 対象病虫害 | 薬 剤 名 | 使用量 10a 当たり | 散布時期の目安 | 本剤の 使用回数 | 注 意 事 項 |
|--------------------|------------------|----------------|---------------------------------|-------------|-------------------|
| いもち病、紋枯病、 カメムシ類 | イモチエースキ ラップ粒剤 | 3 kg | ゆめみづほ 7月9~12日 コシヒカリ 7月21~24日 | 1回 | 使用時期： 収穫35日前まで |

※水深3~5cm程度で散布7日間は湛水状態を保つ

【2回目：出穂後】

| 対象病虫害 | 薬 剤 名 | 使用量 10a 当たり | 散布時期の目安 | 本剤の 使用回数 | 注 意 事 項 |
|------------------------|-------------|----------------|------------------------------------|-------------|------------------|
| カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ | スタークル 粒剤 | 3 kg | ゆめみづほ 7月30日~8月2日 コシヒカリ 8月10~13日 | 3回以内 | 使用時期： 収穫7日前まで |

※水深3cm程度で散布4~5日間は湛水状態を保つ

(2) 随時防除 常発地や昨年発生が見られた地域は田まわりを徹底しましょう。

○稲こうじ病 ※穂ばらみから出穂にかけて雨が多く、低温・日照不足で発生が多くなる。

| 薬 剤 名 | 使用量 10a 当たり | 使用適期 | 本剤の 使用回数 | 注 意 事 項 |
|-------------|----------------|---------------|-------------|----------------------------------|
| モンガリット粒剤 | 3~4 kg | 出穂2~ 3週間前 | 2回以内 | 水深3cm程度で散布4~5日間は湛水を保つ。 |
| 撒粉ポレドール粉剤DL | 3 kg | 出穂14~ 10日前 | - | 穂に付着すると薬害を生じるので、必ず出穂10日前までに散布する。 |

6・7・8月は農薬危害防止運動期間です。農薬を安全で適正に使用し、その保管管理を徹底することは、農業生産の安定だけでなく、生産者の健康や生活環境の保全の観点からも重要です。

2 肥培管理

(1) コシヒカリの穂肥 ※幼穂長を確認し稲姿に応じて的確に施用すること。

◎施用基準

| 品 種 名 | 施 用 時 期 (幼 穂 長) | BB有機入松任穂波 | | 葉 色 |
|-------|----------------------|-----------|-------------|-----|
| | | 時期の目安 | 施用量(kg/10a) | |
| コシヒカリ | 出穂18日前 (10~15mm) | 7月14~16日 | 30 | 3.5 |

- ・葉色が基準程度で葉身は直立・・・基準どおり施用。
- ・葉色がやや濃い葉身は直立・・・基準より5日遅らせる。
- ・葉色が濃く葉身の乱れが目立つ・・・基準より(1回目を)5日遅らせ、2割減肥。

(2) 追加穂肥について

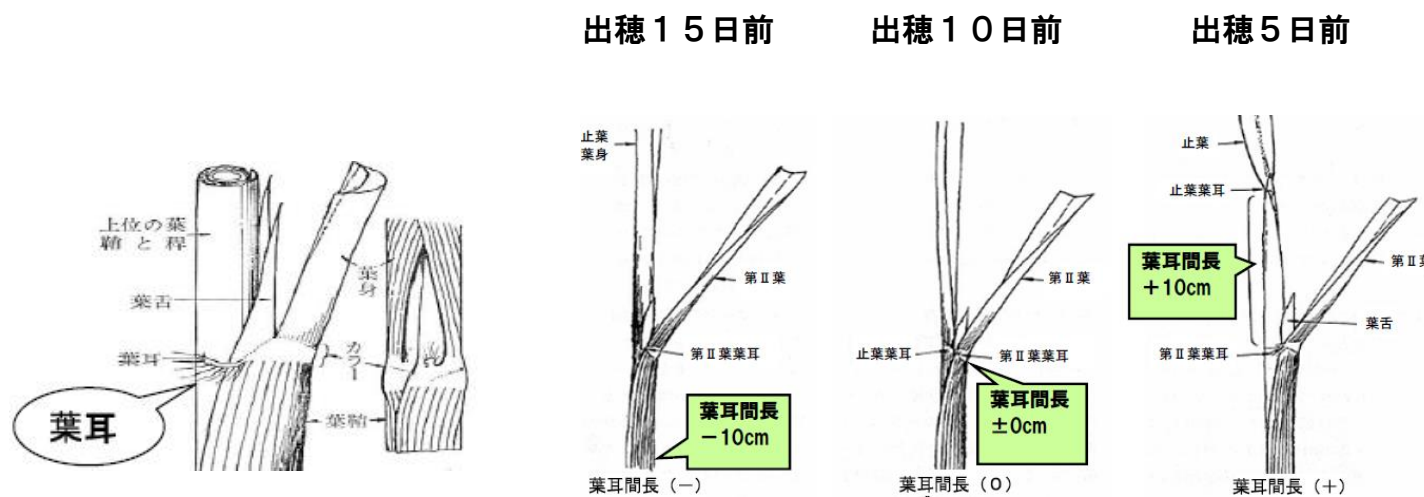
3ヶ月予報(6月24日発表)において、7・8月とも平年に比べ晴れの日が少ないことから、追加穂肥は基本的に不要です。

砂質土壌など地力が低く秋落ちすることが懸念される場合は、葉色を確認して施用する。

◎施用基準

| 品 種 名 | 施 用 時 期 | BB有機入松任穂波 | | 葉 色 |
|-------|---------|-----------|-------------|-------|
| | | 時期の目安 | 施用量(kg/10a) | |
| ゆめみづほ | 出穂7日前 | 7月10~12日 | 7~8 | 5未満 |
| コシヒカリ | 出穂7日前 | 7月25~27日 | 7~8 | 4.5未満 |

◎葉耳間長による出穂前日数の推定方法



3 倒伏軽減剤

| 薬 剤 名 | 使用量 10a 当たり | 使用適期 | 本剤の 使用回数 | 注意事項 |
|----------|----------------|---------------|-------------|---|
| スマレクト粒剤 | 2 kg | 出穂15~ 10日前 | 1回 | 湛水状態で播きムラのないように均一に散布し、散布後は5日間は湛水状態を保つ。散布後7日間は強制的に落水しない。 |
| ビビフル粉剤DL | 3 kg | 出穂10~ 5日前 | 1回 | 播きムラや重複散布に気をつける。降雨直後や降雨が予想される場合は散布しない。 |

4 水管理 ~飽水管理の徹底~

中干し終了後は間断通水を実施し、徐々に飽水管理へ移行しましょう。また、登熟の後期まで実施し、稲体の活力維持に努めましょう。



- ※高温が続く場合は、夜間通水により地温を下げるよう努める。
- ※強風やフェーンが予想される場合、急激な蒸散による高温障害等の発生を防止するため、あらかじめ十分に入水しておく。
- ※早すぎる落水はイネの根の状態を早く弱め、米の収量や品質を低下させます。

生育診断器を用いた的確な穂肥・追加穂肥の施用を！！

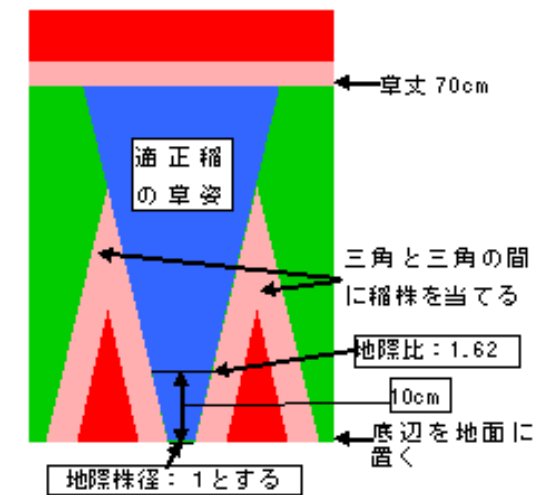


ちょっと聞いてま！

- ・この生育診断器は、コシヒカリの出穂25日前頃の草姿について診断します。今年の出穂予想日から7月8日~13日に使用してください。
- ・コシヒカリの穂肥量を決めるのが容易になりました。
- ・詳しい使用方法是JAにお問い合わせ下さい。



写真1 ボード型診断器による生育診断



作業のポイントのチェック！！

- 追肥は適期に適量を施用しましたか(分施肥体系)。
- 基幹防除は実施しましたか。
- 稲の生育を確認し追加穂肥を実施しましたか。
- 飽水管理等の適正な水管理を実施しましたか。

7・8月は熱中症予防に努めましょう！！(予防方法の例)

帽子をかぶる、涼しい服装にする、こまめに休憩する、こまめに水分・塩分を補給する